

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

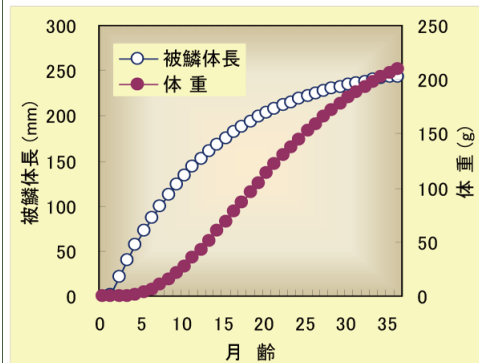
系群名 対馬暖流系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 3歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 九州周辺水域では周年、日本海北部では春から夏
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部～東シナ海
食性: 稚魚期・成魚期ともカイアシ類、十脚類、端脚類
捕食者: 大型魚類やほ乳類、海鳥類、頭足類

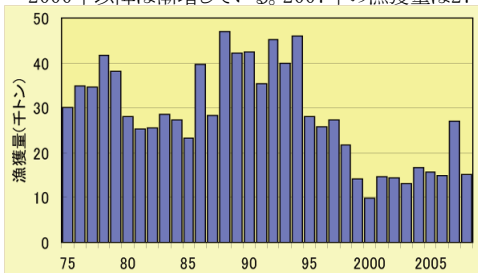


漁業の特徴

東シナ海区では中小型まき網や敷網、日本海西区では大中型まき網、中型まき網、定置網、敷網により漁獲される。日本海北区では定置網、敷網、まき網などで混獲される程度である。漁獲が多いのは東シナ海区と日本海西区である。

漁獲の動向

対馬暖流域において1981～1997年の漁獲量は約23千～47千トンで推移していたが、1998～2000年に減少した。2000年以降は漸増している。2007年の漁獲量は27千トン、2008年の漁獲量は15千トンであった。

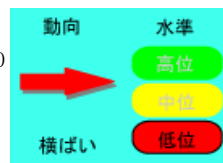


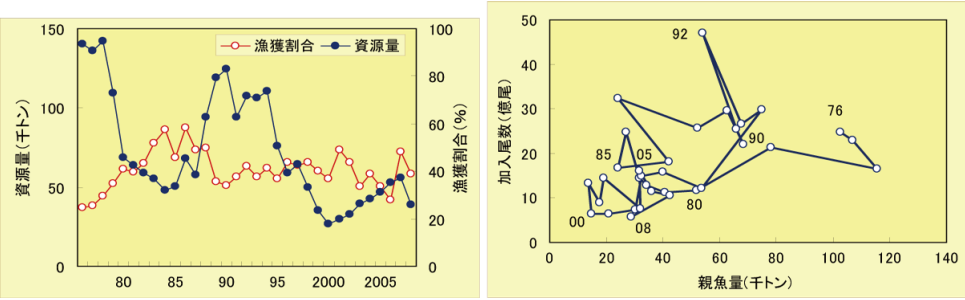
資源評価法

コホート解析により資源量を推定した。寿命は3歳とし、最近年のFは過去3年間の平均値とした。自然死亡係数は0.7とした。ほかに、ノルバックネット鉛直曳による卵豊度の推定と計量魚群探知機調査を行った。

資源状態

コホート解析から計算された資源量は、1978年に142千トンを示した後に減少し、1984年に48千トンとなった。その後、増加し始め、1990年に125千トンとなった後に、1993年まで100千トン程度で推移した。その後、再び減少し始め、2000年には27千トンとなった。2000年以降は増加傾向にあり2007年には56千トンとなったものの2008年には39千トンであった。





管理方策

本資源はBlimit(リッカー型再生産関係の最大加入量の50%が期待できる親魚量が21千トンであることから、Blimitは1999年水準の親魚量21千トンとする)以上である。現状で、資源は低位・横ばいであるが、Fmsyを管理基準とすることで、資源量のさらなる増大を見込める。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	19千トン	Fmsy	0.81	34%
ABClimit	16千トン	0.8Fmsy	0.64	29%

資源評価のまとめ

- コホート解析により資源量を推定した
- 資源量は2000年以降2007年まで増加したが、2008年には減少した
- 親魚量はBlimit以上である

管理方策のまとめ

- 近年加入の変動が激しいので、今後の動向を注意深く見守る必要がある

平成21年10月23日更新

資源評価は毎年更新されます。